

学校運営計画(4月)			評価(3月)			
学校運営方針	校訓「水平線に突起をつくれ」の精神を重んじ、いかなる時代にあっても五常の徳目「仁・義・礼・智・信」を有し、地域はもとより国際社会に貢献する人物の育成に努める。			A		
昨年度の成果と課題	30年度 重点目標		具体的目標			
<p>昨年度は、進路指導や広報活動の充実、地域・PTA・同窓会との連携強化による創立100周年記念事業実施、「新たな学びプロジェクト」研究開発校としての取組等を通して学校全体が活気づき、生徒の進路実績も向上した。</p> <p>本年度も、「アクティブハイスクール田川」を学校のスローガンとして掲げ、授業改善や創意工夫した粘り強い指導と教育活動を通して、さらに多くの生徒の第一希望進路の実現を達成させ、生徒・保護者・地域の期待や信頼に応える教育活動を展開していく。そのために、さらに教職員一人ひとりがチームワークを大切に、教育の最前線に立っていることを自覚して、専門職としての自覚と誇りをもって教育に当たっていくことが必要である。</p>	自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任の持てる主体性に富んだ人物の育成	職員研修等により教師力向上を目指し、教育活動全体を通して生徒の「生きる力」を育む。				
	規律と責任を重んずる生徒の育成	挨拶の励行や、校則の遵守等、家庭と共同して基本的な生活習慣の確立と社会の規範意識の形成に努めるとともにボランティア活動にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。				
	人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな生徒の育成	教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安心・安全な学校づくりを目指す。				
	真理を探究することの喜びを体得できる生徒の育成	全校あげて「田川アクティブ・ラーニング」に基づく授業改善に努め、質の高い授業を実践する。				
	自分自身の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる生徒の育成	スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自尊感情を高め、個に応じた指導を徹底する。				
志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒の育成	「水平線に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成するため部活動加入率80%を目指すとともに、スーパー特進クラスが高い志を持ち、学習面において本校の牽引役となるよう指導に努める。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
教 務	全校あげて「田川アクティブ・ラーニング」に基づく授業改善に努め、質の高い授業を実践する	学習評価の充実を図るため、観点別評価にかかる取り組みを充実していく。年間指導計画に観点別評価による目標を設定し、学期ごとに評価・改善を図る。また、1・2学期末に授業アンケートを実施し、授業改善につなげる。	B	A	<p>校舎完成に合わせて、全教室のICT機器環境を整備すること。</p> <p>授業アンケートの取組は、実施の形態を含めて再検討する。</p> <p>広報活動は中学3年生のみならず、中学1・2年生へ向けて実施を検討する。</p> <p>PTAとの連携は円滑に行われたが、全体的な参加人数は停滞しており、諸行事への参加が容易となることを中心に計画を行う。</p>	
	「田川アクティブ・ラーニング」に基づく質の高い授業や部活動をはじめとする教育活動の成果を広く発信し、本校志望生徒を増やす	各分掌と連携を図り、生徒の魅力が伝わる「田川高校へ行こう」を年3回発行し、小中学校や地域へ配布する。	A			
	諸活動を通して、PTA・同窓会との関係を深め、円滑な学校運営に資するよう努める	生徒を主体とした魅力ある中学生の体験入学を実施する。体験授業や出前授業は各教科と連携する。	A			
		部活動の結果報告や進路情報、学校行事など最新情報を適宜ホームページで更新する。	A			
		PTA・同窓会と職員の連携がスムーズに行くようこまめに調整役を果たす。	A			
生徒指導	学校行事及び部活動に積極的に取り組む姿勢を育む	PTA・同窓会の諸行事を生徒の健全な心身の育成に資するよう充実させる。	A	A	<p>・学校行事、基本的な生活習慣の確立、学習習慣、規範意識の育成、挨拶運動、交通安全、校内美化等について、生徒会執行部を中心とした各種委員会が主体的に取り組む環境を整え、教師主導から生徒主導への移行をさらに推進する。</p> <p>・学校行事や日常の教育活動の中で、生徒一人ひとりが役割を果たせるような環境を構築し、教師と生徒、生徒同士の信頼関係を強固にし、いじめなどの問題行動が起こらない学校づくりを目指す。</p>	
	基本的生活習慣の確立とマナー指導の徹底	体育大会や文化祭において、生徒会執行部を中心とした運営を推進し、主体性と社会性を育む。	A			
	安全かつ効果的な教育活動を推進する	部活動を通じた人間形成を図り、学校における文武両道を推進する。	A			
		教育環境の整備を各教科・学年と連携し、鞆や補助バッグ等の並びや集会時の靴の並びをしっかりとさせる。	B			
		挨拶の励行をはじめ、場をわかました正しい礼儀及びマナーを身につける。	A			
進路指導	キャリア教育の観点に立った進路学習を推進する	様々な集団の中で「いじめ」を未然に防止するためにアンケートを毎月行い、情報収集と情報共有を行う。	A	A	<p>・今年度から希望制へ移行した補講、模試については、必要性・有効性を理解させ、必要とする者(進学希望者)へ、受講・受験を促進していく。</p> <p>・教務と連携し、学びの基礎診断への対応を図る。</p> <p>・「入試改革」への対応を充実させる。</p> <p>・長期休業中の補講について、個々に応じた進路実現につながるよう、実施形態や方法を探る。</p> <p>・校内職員研修会については、社会の変化や生徒の実態等を踏まえ、計7回実施できた。来年度も引き続き、関係分掌と連携を図りながら効果的な研修を企画・運営していきたい。</p> <p>・次年度の研究授業や公開授業については、特にICT機器を活用した生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進していきたい。</p> <p>・記録誌「嶺鳳」の内容を精選する。</p> <p>・読書を推進する取組を継続する。</p>	
	希望進路実現に向けての計画的組織的な教科指導の徹底に努める	交通安全指導を徹底する。特に自転車通学生のための講演会、一本松駅からの登校指導を強化する。	B			
	希望進路実現に向けての個に応じた指導の充実および、情報収集に努める	年5回の「美化コンクール」の実施や月末大掃除の徹底を図り、校内美化に努める。	A			
	職員研修の充実を努める	生徒・職員全員で一斉に掃除に取り組む、学習環境を整える。	B			
	図書委員のリーダーシップによる全校生徒・職員の「朝の読書」の継続と充実。	年間5回の進路HRと総合的な学習の時間「総学蒼鷹」とを連携させ、生徒が主体的に進路選択できるように、情報を提供するとともに、選択する能力を高める。	A			
第1学年	基本的生活習慣と基礎学力の定着	学部や学科の研究をすることで、広い視野をもって自分にあった進路目標の設定につなげる。	A	A	<p>・入学以来体得した基本的生活習慣を継続することで、更に社会人としての規範意識を高揚させる。</p> <p>・大学共通テストへの対応を図るためにICTの活用や指導方法の工夫によって生徒が自ら学ぶ意欲・態度を喚起させる。</p> <p>・外国語(英語)学習強化を学年課題として特化する。</p> <p>・様々な問題を抱える生徒に対して保護者や関連機関と綿密な連携を継続しつつ対応にあたる。</p>	
	自己実現に向けた進路意識の向上	同窓会と連携して第一線で活躍する同窓生と交流する機会を設け、進学や就業への意識を高める。	A			
		大学入試センター試験を始め各大学の入試問題研究を十分に行い、新課程入試に対応した指導力向上の一助とする。	B			
		基礎学力の伸長に加え思考力、判断力、表現力の育成を目指すため、補講の内容を充実させる。	A			
		新しい入試制度についての情報を収集し、教務部との連携を図り、カリキュラムやキャリア教育の計画を練り直す。	B			
第2学年	生徒一人ひとりが大切にされていると実感できる学年	英語科と連携し、「英語・検定試験」の受験を促進を図る。	A	A	<p>・進路希望の実現を図る。</p> <p>・成績上位の生徒の学力向上や意識向上のため、個別対応の充実を図る。</p> <p>・インターンシップの内容の充実</p> <p>・人間関係づくりが苦手な生徒に対する対応。</p> <p>・SNS対策の拡充のため、生徒の実態把握と教員の協議。</p> <p>・部活動の更なる活躍と県大会上位進出。</p>	
	自己実現に向けた進路意識の向上	担任、教科担当者、部活動顧問と連携した生徒個人面談を充実させ、生徒一人ひとりに適切な指導を徹底する。	A			
		模擬試験後は、必ず進路検討会にて生徒情報の共有化を図り、組織的な指導を行う。	B			
		ファイナシステム使用者を全担任、各学年進路担当者に拡大し、模試の分析や、進路に関する情報収集の効率化を図る。また大学との連携による出前授業や卒業生による講演会などを実施し、進路意識の高揚を図る。	B			
		大学入学共通テストや新学習指導要領等に関する見識を深めるための校内職員研修会を実施する。	A			
第3学年	第一進路希望の実現	生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すため、各教科において年2回研究授業を実施する。	B	A	<p>・生徒のモチベーション維持のため、4月から6月中旬までの放課後活用の工夫が必要である。</p> <p>・朝読書の時間を、今年度はリスニング対策の時間とした。その他小論対策等も効果があると考える。</p> <p>・奨学金情報は教室掲示での周知のほかに「学年だより」を活用する。</p>	
	嶺南健児としてふさわしいプライドの確立	公開授業をとおして、アクティブラーニングの視点に沿った授業改善への取組の成果を地域に発信する。	B			
		研究授業及び各種研修会の報告や個人研究等を広く職員に求め、紀要にまとめる。	A			
		図書委員のリーダーシップによる全校生徒・職員の「朝の読書」の継続と充実。	B			
		秋の読書週間における「臨時学級文庫」の設置。	A			
人権・同和教育	家庭・地域・中学校との連携に努める	時間厳守・挨拶の励行を習慣化させるとともに規範意識の高揚を図る。	A	A	<p>・生徒の情報を、学年、分掌を超えて共有し、課題の克服につなげる。</p> <p>・校外研修を校内に還元する。</p> <p>・人権学習の実践を、授業実施者に還元し、次年度にも生かす。</p> <p>・奨学金に関して必要な家庭に情報が行き届くようにする。</p>	
	人権意識と行動力を備えた生徒の育成に努める	初期段階における学習方法の定着と継続する習慣を確立させる。	A			
		習熟度に応じた指導方法の工夫と研鑽によって自ら学ぶ意欲・態度を喚起する。	B			
		定期的な生徒個人面談を活用して一人ひとりが早期の具体的な目標明確化を促す。	A			
		HR活動や総合的な学習の時間をとおして進路についての幅広い知識を得させる。	A			
	諸活動への積極的参加と社会的貢献を促すことで精神的な向上を図る。	B				
	生徒を一人の人格として尊重し、生徒の意欲やニーズをもとに個に応じた指導の充実を図る。	A	A			
	生徒の生活背景や実態を正確につかみ、一人ひとりの生徒の存在を大切に学年経営を目指す。	A				
	落ちついた学習環境に努め、安心できる空間づくりを目指す。	A				
	生徒一人ひとりの個性、能力を伸ばし、主体的な進路選択ができるよう努める。	A				
	キャリア学習や体験的な学習を通して、将来に向けたイメージや方向性を確立していく。	A				
	読解力の向上を目指し、小論文学習の充実、時事問題やさまざまな情報のアクセスによる意識喚起を図る。	A				
	進路希望の実現に向けた雰囲気作りを行う。	A	A			
	希望進路実現に向けての効果的なプロジェクトを創意工夫する。	B				
	奨学金情報や受験生の心理等の保護者への情報提供を行う。	B				
	各行事においてリーダーシップを発揮し、高校生活最後の学校行事を意義あるものにする。	A				
	部活動が有終の美を飾れるよう支援する。	A				
	「学年だより」を発行し、保護者に生徒の活躍を伝える。	A				
	家庭訪問を積極的に行い、保護者とともに生徒の課題を克服していく。	A	A			
	生徒の状況について中学校や地域と連携し、課題の克服につなげる。	B				
	HR活動での人権学習を公開し、人権・同和教育の改善・充実を図る。	A				
	年間計画に沿った人権・同和教育の校内研修会を適宜実施し、人権尊重の学校づくりに取り組む。	A				
	授業等を通して教科での人権・同和教育を行い、学力保障と人権意識の高揚を図る。	A				
	生徒の地域活動を支援し、差別をなくすための実践的行動力を育成する。	A				
	全職員が県教育委員会・研究団体等主催の研修会や学習会に1回以上参加し、人権・同和教育への主体性と指導力を高める。	B	A			
	本校の課題に即した校内研修会を通して、人権尊重の学校づくりに取り組む。	A				